

平成 30 年度岡山大学入学式及び大学院入学式式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日ここに、学部学生 2,396 名、大学院学生 1,057 名、総計 3,453 名の新入生、そして 22 か国から 125 名の留学生が、岡山大学に入学を許可されました。皆さんの長年の努力が実を結び、岡山大学において、人生の新たなページを開かれることは、私たちにとっても大きな喜びであります。ご来賓の皆様とともに、岡山大学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げますとともに、ご列席の保護者ならびにご家族の皆様にもお慶びを申し上げます。

新入生の皆さんが今日から学ばれる岡山大学は、今から 148 年前の明治 3 年に創設された岡山藩医学館を起源とする岡山医科大学、明治 7 年の温知学校、明治 33 年の旧制第六高等学校、大正 3 年の大原奨農会農業研究所など、岡山の地にあった優れた伝統と実績を誇った高等教育機関を統合して、昭和 24 年、新制国立大学として設立されました。

岡山大学の理念は、『高度な知の創成と的確な知の継承』です。私たちは、人類社会を安定的かつ持続的に進展させるために必要な新たなる知識基盤の構築を目指すと共に、「開かれた知の府」として高度な知の創成すなわち研究の促進と、的確な知の継承すなわち教育と社会貢献の推進を通じた人類社会への発展に寄与することが求められています。そして、本学の目的は『人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築』です。すなわち岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、人類社会の持続可能性を追究するための新たなパラダイム構築に取り組むことを目的としています。

また現在の岡山大学は、11 学部 1 コース、8 大学院研究科、3 つの研究所、大学病院、附属学校園を備えた、全国でも屈指の規模をもつ総合大学でもあります。そして、その主たる二つのキャンパスは、この会場のすぐ北に大きく広がる津島キャンパス、そして岡山駅の南に位置する医学部・歯学部・大学病院などが入っている鹿田キャンパスという、まさに市街地と一体化したロケーションを有しており、現在 1 万 3 千人の学部学生と大学院生、留学生 700 人、教職員を合わせて約 2 万人の方々が、日々学術的研鑽を積んでいます。本学のキャンパス全体と、この岡山の地を、私たちは学びの都と書いて「学都」と呼び、地域全体で連携・協働することによって、共に発展していこうと様々な取り組みを行なっています。

私はその中で、先ほどお話しした岡山大学の目的を達成するために、国連が提唱した SDGs に着目しました。SDGs とは Sustainable Development Goals の略で、日本語では「持続可能な開発目標」と訳されています。2015年に国連サミットで採択された、人間と地球が共に繁栄するための行動計画で、世界を変えるための 17 目標と 169 のターゲットからなっています。現在、岡山大学では地域の方々と共に SDGs を踏まえて、それぞれが抱える社会の課題を大学の機能を活かして、グローバル・イノベーションに直結するような取り組みを行っております。昨年 12 月、本学は、日本政府から第 1 回「ジャパン SDGs アワード」の「パートナーシップ賞」という名誉ある特別賞をいただくことができ、また先日の国連の SDGs の世界会議でも私共の活動が注目されました。私たちは皆さんと共に、これからの教育研究活動を通して SDGs をはじめとする様々な課題の解決に挑戦したいと思います。

さて、将来への夢と希望を持ってこの岡山大学に入学された皆さんに、ひと言これからの大学生活についてアドバイスをしたいと思います。先日私が書類の片付けをしていたところ、小学生の時の卒業文集が出てきました。そこには私の手書きで「野口英世のような人になりたい。なれるかな?」と書かれていました。野口英世は、「過去を変えることはできないし、変えようとも思わない。なぜなら人生で変えることができるのは、自分と未来だけだからだ。」という言葉を残しています。「光陰矢の如し」という言葉のとおり、大学生としての月日はあっという間に過ぎてしまいます。失敗を恐れずに何事にも取り組み、皆さんの未来をより輝くものにしていただければと思います。

そして、今後皆さんが何か困難な課題を抱えたとき、けっして自分だけで解決しようと苦しむのではなく、一歩踏み出して学部や学科、年齢・地域、そして国籍を超えた多くの仲間たちと繋がってください。知恵と力を出し合って解決に向けて取り組むことで、今まで考えたこともなかった視点からのアイデアや、経験したことのない一体感にきっと出会われることと思います。実はそれこそ、多様性を愛する本学の学生が“グローバル実践人の岡大生”と言われる所以であり、皆さんが先輩から受け継ぐべき伝統でもあります。グローバルという言葉は、単に外国語を聞き・話すことだけを指しているのではなく、あらゆる世界と自分との積極的なコミュニケーションを表す言葉でもあると考えています。

そういう観点で、本学のキャンパスで学ぶ多くの留学生の皆さんとしっかり交流すると共に、ぜひ皆さんご自身も留学にチャレンジしていただければと思います。私も丁度皆さんの年頃の頃に、米国フィラデルフ

ニア近くの Emmaus High School に 1 年間通いました。この留学体験は私に、Positive Thinking の大切さや、Fairness (公平であること) の重要性を教えてくださいました。またボランティア活動を通じた多くの方々との交流は、日本の歴史・文化の重要性を改めて感じた貴重な機会であり、失敗を恐れずに一歩前に踏み出し体験することこそ若者の特権である、という私の実感の源 (みなもと) でもあります。

最後に、本日ご臨席くださった保護者ならびに関係者の皆様にお礼とお願いを申し上げます。このたびは、皆様のご大切なご家族の進学先として、私たち岡山大学を選んでくださり誠に有難うございました。私たち教職員一同、新入生の皆さんが、高度な知識・技術と高い実践力を習得し、日本だけでなく世界でも活躍できる教養豊かなグローバル人材として成長されるように、全力で支援をして参りたいと思います。また保護者の皆様におかれましては、岡山大学が、今後も引き続き充実した学びの場となるよう、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、新入生の皆さん、今日から岡山大学の学生として、希望に溢れた新しい一日が始まります。どうか自分を信じて何事にも積極的に取り組み、仲間とともに充実した大学生活を送ってください。私たちは、皆さんとともに築いていくこれからの岡山大学の未来が、これまでの本学の歴史や伝統を超えるものとなり、皆さんにより大きな誇りと自信をもたらすことを期待しています。

本日は誠にめでとうございました。

平成 30 年 4 月 2 日

岡山大学長

槇野 博史